



水巻の歴史と文化財

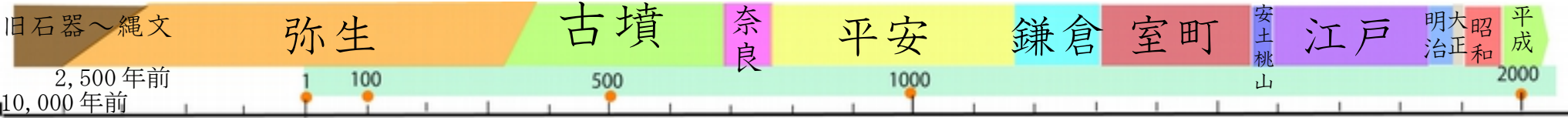
水巻町歴史資料館作成

※ □ 内は天然記念物

水巻の文化財概要

県指定 1 件

町指定 6 件



- ① 遠賀川式土器壺 (立屋敷遺跡)
三稜尖頭器遺跡Aの貝層形石器 (苗代谷遺跡)
- ② 箱式石棺 (宮尾遺跡B)
- ③ 小形ぼう製鏡 (上二貝塚)
- ④ えぶり遺跡箱式石棺
- ⑤ 八所神社四環鈴
- ⑥ 松ヶ谷横穴墓
頃末遺跡A
- ⑦ 木造狛犬 (八劔神社)
- ⑧ 立屋敷丸ノ内遺跡
- ⑨ 木造随神像 (八劔神社)
- ⑩ 古賀城
- ⑪ 与四郎墓
- ⑫ 蔵富吉右衛門
- ⑬ 三井六軒返切馬
- ⑭ 伊藤南華絵馬一對
- ⑮ 二人の青年
- ⑯ 炭鋤就労者の像
- ⑰ 十字架の塔
- ⑱ 八劔神社の大イチョウ
- ⑲ 頃末小学校露頭

水巻の歴史と文化財関連位置図

※ 青字は指定文化財

苗代谷遺跡(旧石器 / 弥生 / 古墳 / 鎌倉)

頃末遺跡 A (縄文 / 弥生 / 古墳 / 中世)

①【町】遠賀川式土器壺(弥生)

(立屋敷遺跡、水巻町歴史資料館保管)

② 宮尾遺跡 B 箱式石棺(弥生)

③【町】小形ぼう製鏡(弥生)

(上二貝塚出土、水巻町歴史資料館保管)

③ 上二貝塚(弥生 / 平安 / 鎌倉)

④ えぶり遺跡箱式石棺(古墳)

⑤ 八所神社・四環鈴(古墳)

⑥ 松ヶ谷横穴(古墳)

⑦【町】木像狛犬(八劔神社)(平安)

⑦【町】木像随神像(八劔神社)(室町)

⑧ 立屋敷丸ノ内遺跡(鎌倉 / 室町～江戸)

⑨ 古賀城(戦国)

⑩ 与四郎墓(江戸)

⑪ 蔵富吉右衛門墓(江戸)

⑫-1 宮尾遺跡 A 鍛冶炉、⑫-2 堀川車返切貫(江戸)

⑬ 三十六歌仙絵馬(河守神社)(江戸)

⑭ 伊藤南華絵馬一対(八劔神社)(江戸)

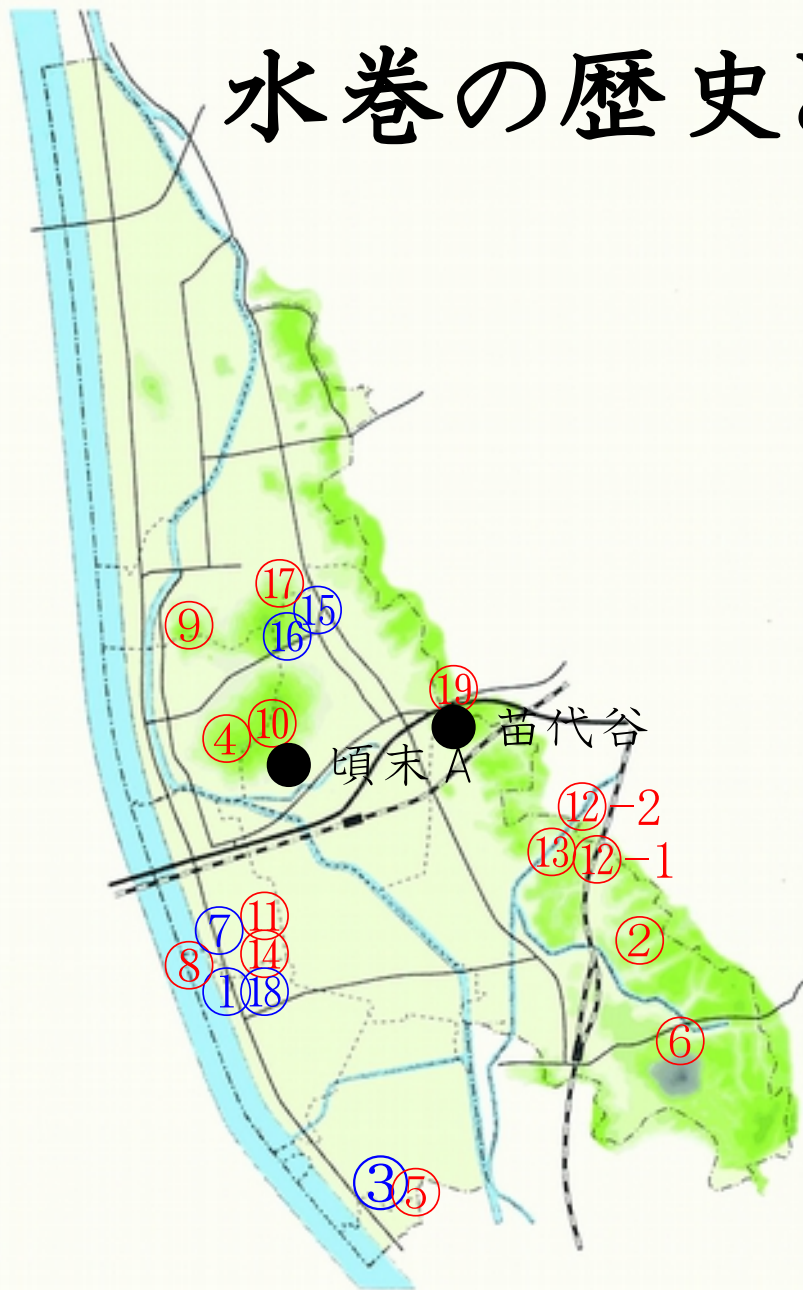
⑮【町】二人の青年(水巻町図書館)(昭和戦前)

⑯【町】炭鋏就労者の像(水巻町図書館)(昭和戦前)

⑰ 十字架の塔(昭和)

⑱【県】八劔神社の大イチョウ

⑲ 頃末小学校露頭(3,500～3,000 万年前)



旧石器時代(今から3万～1万年前)



「やさしい福間町の歴史」より

- 氷河期

ナウマン象、オオツノシカ
などの大形動物

- 2万年前の海水面は現在より100メートル下であった。

石の道具を使っていた

「やさしい福間町の歴史」より



ナイフ(左)
とやり先(右)
(水巻町苗代谷遺跡)

「遠賀人の足跡」より



ナイフ
(遠賀町尾崎天神遺跡)

縄文時代の遺跡



山鹿貝塚2～4号人骨
「遠賀人の足跡」より

「増補水巻町誌」より

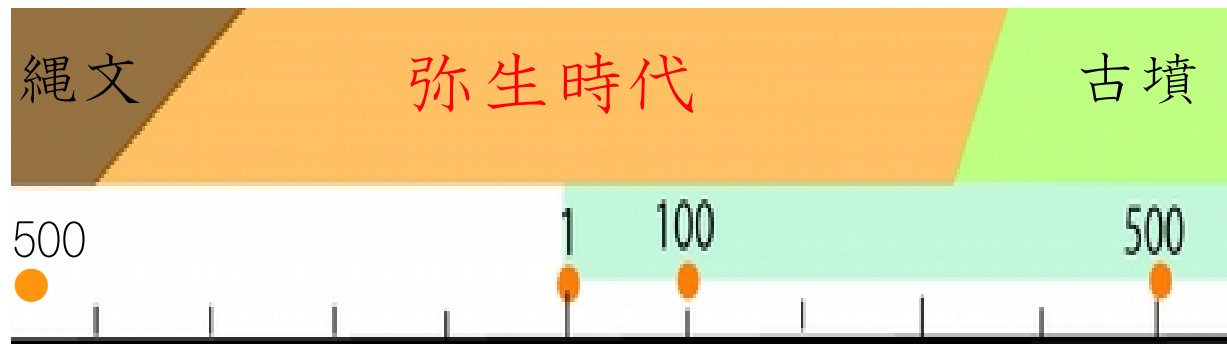
頃末遺跡 A 地点(頃末北 2 丁目)



縄文時代後～晩期(4～3,000 年前)の貝層



弥生時代の水巻



- 国がひとつにまとまる
女王卑弥呼の登場
- 倭国大乱
- 小国の分立
- ② 箱式石棺(宮尾遺跡B)
- ① 遠賀川式土器(立屋敷遺跡)
- 弥生土器・金属器の使用
米作りの始まり





図2-4 利根川下流域の古遠賀湾と縄文・弥生貝塚（「縄文・弥生時代遺跡分布¹⁵⁾」を元に作成）

松本洋忠「歴史認識を踏まえた河川技術者の役割」2012より

① 立屋敷遺跡(伊左座・立屋敷)

遠賀川にある弥生時代(紀元前3～3世紀)にわたる集落跡で弥生時代の研究をすすめるきっかけとなった記念碑的な遺跡。

昭和6年(1931)名和羊一郎発見

昭和15年(1940)第一次調査

昭和27年(1952)第二次調査

昭和50年代河口堰工事により水没

平成6年(1994)第三次調査



① 遠賀川式土器（立屋敷遺跡出土）

弥生時代前期（紀元前3世紀）にこの土器と同じような形や文様のものが米づくりとともに東へ伝わったとされる。

最初に遠賀川でみつかったので「遠賀川式土器」といわれ、西日本の弥生前期土器を代表する。甕形、壺形、鉢、高杯などの種類がある。

しかし立屋敷遺跡ではこの時期の住居や水田はまだ発見されていない。



① 立屋敷遺跡第2次調査 (弥生時代後期 1～3世紀)

この時期の井戸、柱の痕跡、多量の土器、木製品がみつかっていて集落の全盛期と考えられる。



竹中岩夫氏提供



第2次調査で高床建物の柱痕跡のみつかった場所（赤丸）

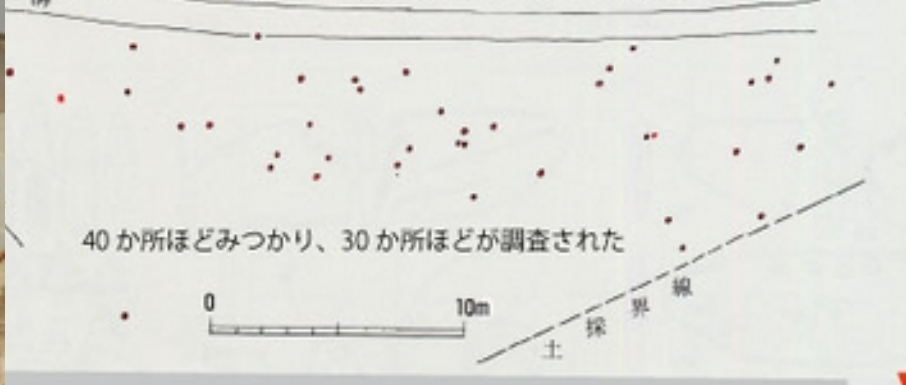
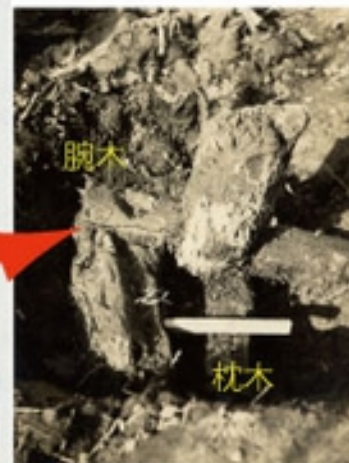
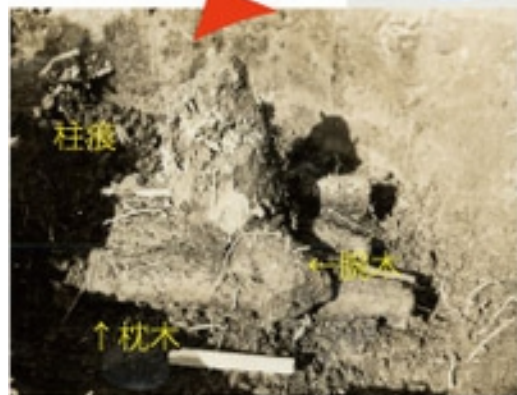
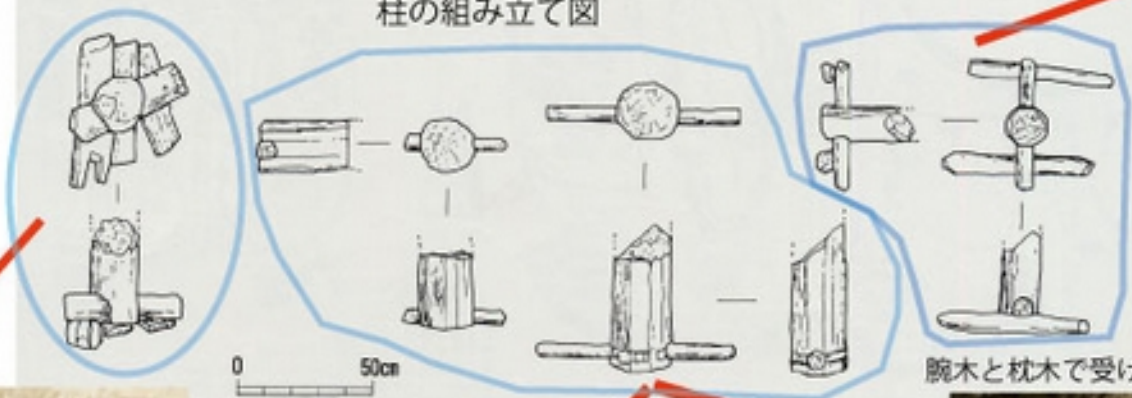


写真: 竹中岩夫提供
図: 「立屋敷遺跡第3次
報告書」より



柱の組み立て図

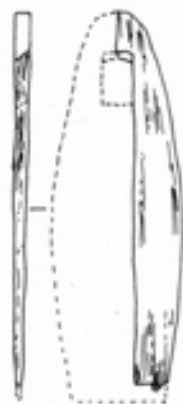


腕木の下を三本の枕木が支える



腕木で受けた柱と礎板の上の柱根

立屋敷遺跡第2次調査時に出土した木製品



平鍬



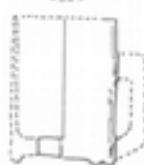
田下駄



又鍬



ジョッキ型容器



盆



「水巻町誌」より



鋤

② 宮尾遺跡 B 箱式石棺 (吉田東5丁目)

標高25メートルの丘陵上にある弥生時代中期の墓域。板状の石を箱型に組み合わせたもの。

付近の宮尾遺跡 A 地点で竪穴住居跡が発見されている。



③ 小形ぼう製鏡 (二西3丁目、上二貝塚出土)

町指定文化財 (1999/7/22)



小形ぼう製鏡(国産
の青銅鏡)直径 5.9
センチ。
水辺の祭祀で使用
用？

上二貝塚は遠賀川の右岸標高2メートル前後の微高地上に所在する弥生～鎌倉時代の集落跡。井戸やシジミ貝を捨てた穴その他柱穴多数。15世紀の文献に出てくる「二村」村の前身と考えられる。



① 立屋敷遺跡第3次調査

ドングリを貯蔵した穴と木の実



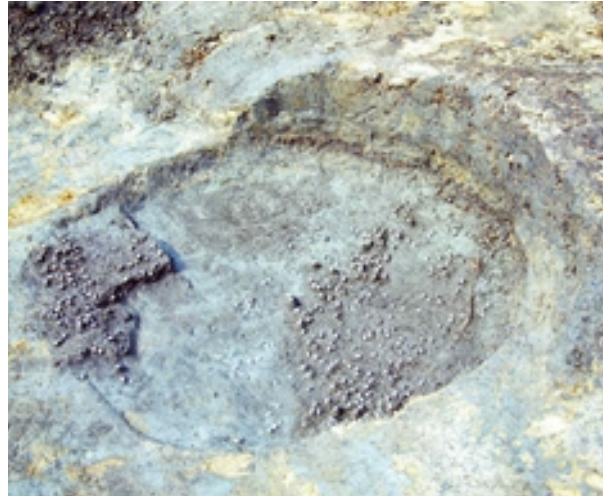
ヒョウタン



クリ

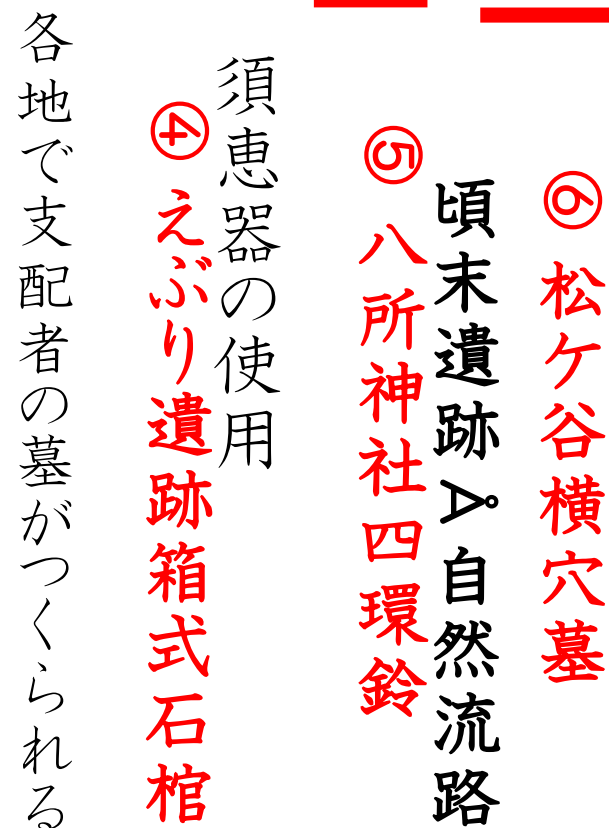


モモ



イチイガシ

Map of the study area in the Kuroki River basin. The map shows the Kuroki River and the surrounding area. The study sites are marked with black dots and labeled with red numbers 1 through 6. The map also shows the locations of the study sites (A, B, C, D, E, F) and the surrounding landscape.



④ えぶり 遺跡箱式石棺（えぶり1丁目、消滅）



遠賀川の右岸明神ヶ辻山（96.5メートル）から西に延びる標高14メートル前後の丘陵斜面上に所在する箱式石棺。5世紀のものと考えられる。

周辺には石棺の石材が散乱し、古墳の石材の一部が残っていて、6世紀代の円墳がある

⑤ 八所神社古墳と四環鈴（二西4丁目）

遠賀川の右岸標高10メートル前後の独立丘陵上に所在する5世紀の古墳。江戸時代の文献には神社の社殿を広げる際、石室から剣、鎧、甲、鈴が出土したという。そのうち現存するのがこの四環鈴で神社の神宝として保存されている。現状では九州では2例しかみつからない貴重なものである。八所神社の境内には古墳の石材の一部が残る。



拝殿左側の石碑が古墳の蓋石といわれている。花崗岩で2.5×1メートル



⑥ 松ヶ谷横穴群 (吉田南5丁目、消滅)

吉田工業団地付近、高尾山(98.9メートル)から北西に延びる標高20メートル前後の丘陵上に所在した6世紀末～7世紀に造営された24基の横穴墓群。古第三紀層の岩盤をトンネル状にくりぬいたものでこの地域の特徴である。

昭和37年(1962)に21基が調査された。



横穴墓の状況。福岡県と水巻町が看板を立て保護していたが、昭和43年消滅。▼は横穴墓



19号横穴墓の入口。部屋が2つあり死床を削り出している。

頃末遺跡 A (頃末北2丁目、一部消滅)

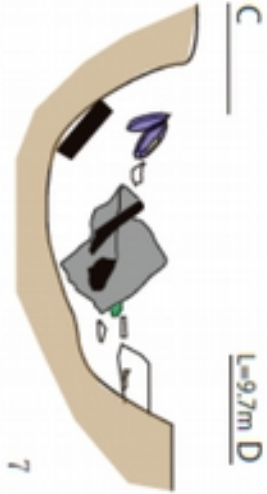
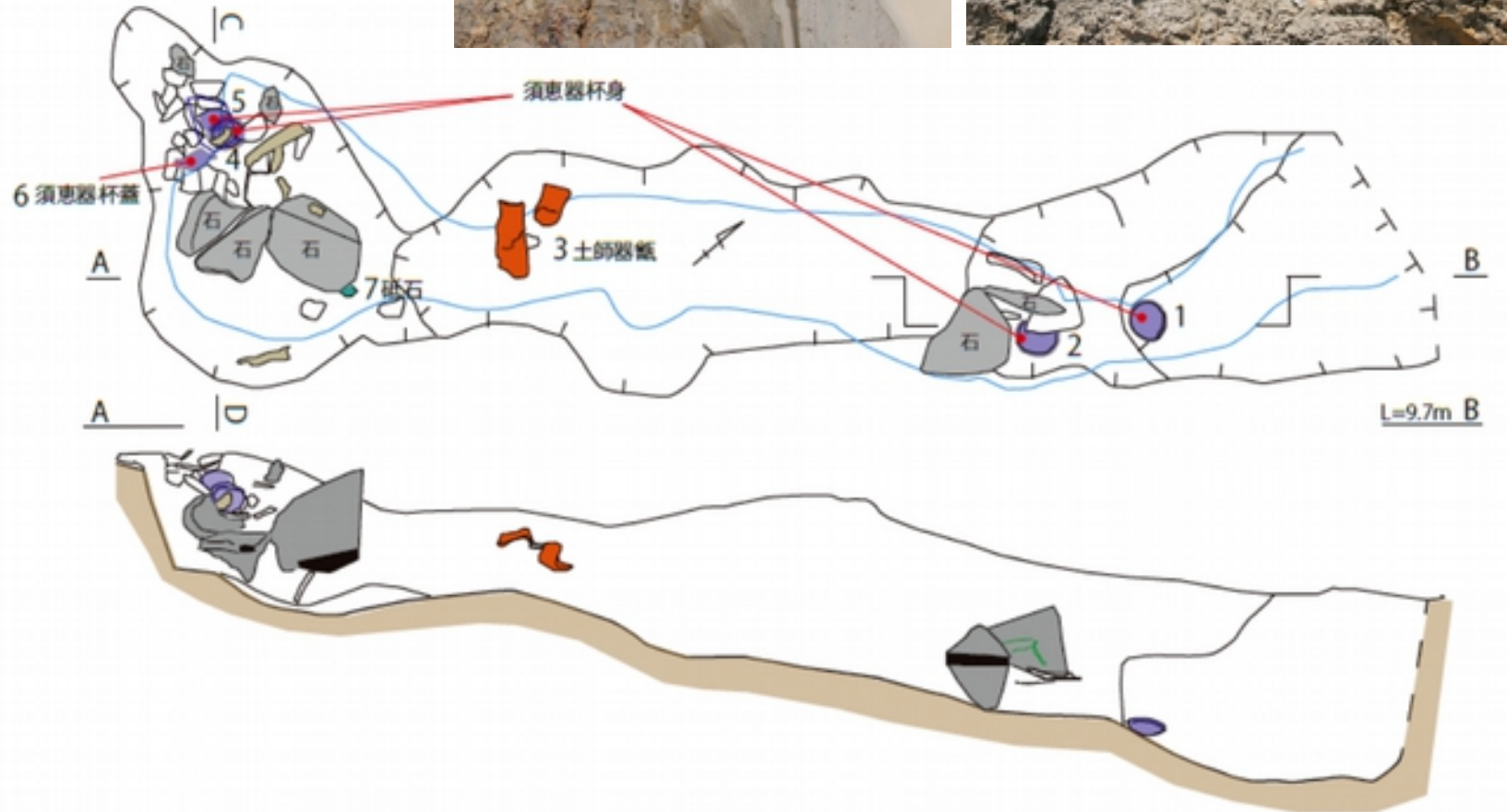


明神が辻山東側にある古墳時代の遺跡(6世紀代)
湧水の流れる小川でお祭りごとに供えられた器(須恵器)とウシの骨がみついている。

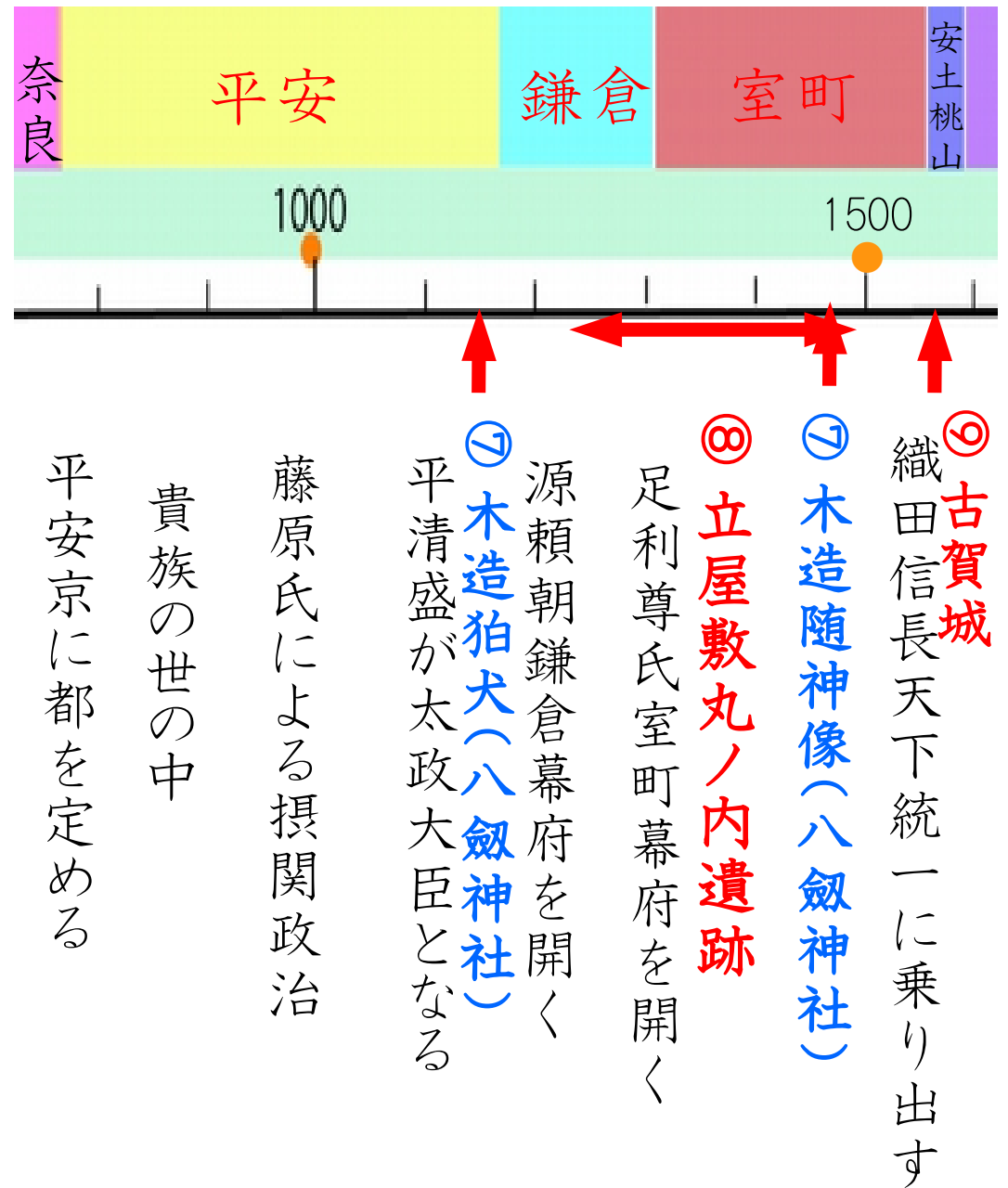




■ 8 獣骨 (ウシ)



中世の水巻





⑦ 八劔神社の木造狛犬・随神像一对

(立屋敷3丁目、町指定文化財 1998/3/26)

吽形

阿形



吽形

阿形



平安時代後期(12世紀半ば)のもの。八劔神社の守護神として山鹿秀遠が寄進したものと伝えられる。クス材の一木づくり。県内最古級。

室町時代のもの。八劔神社の守護神として奉納された。阿形像(右)の像底に書かれた墨書から寛正2年(1461)のものと鑑定された。クス材の一木づくり。

⑧ 立屋敷丸ノ内遺跡（立屋敷地内）



備前焼
(14-15世紀)

常滑焼
(14-15世紀)

青磁
(13世紀)

遠賀川右岸堤防標高2メートル前後の丘陵斜面に立地する13～15世紀の集落跡。発掘調査で溝がみつきり集落を区画するものと考えられる。出土品としては中国製の輸入陶磁器や備前や常滑などの国産陶磁器などもみつけた。

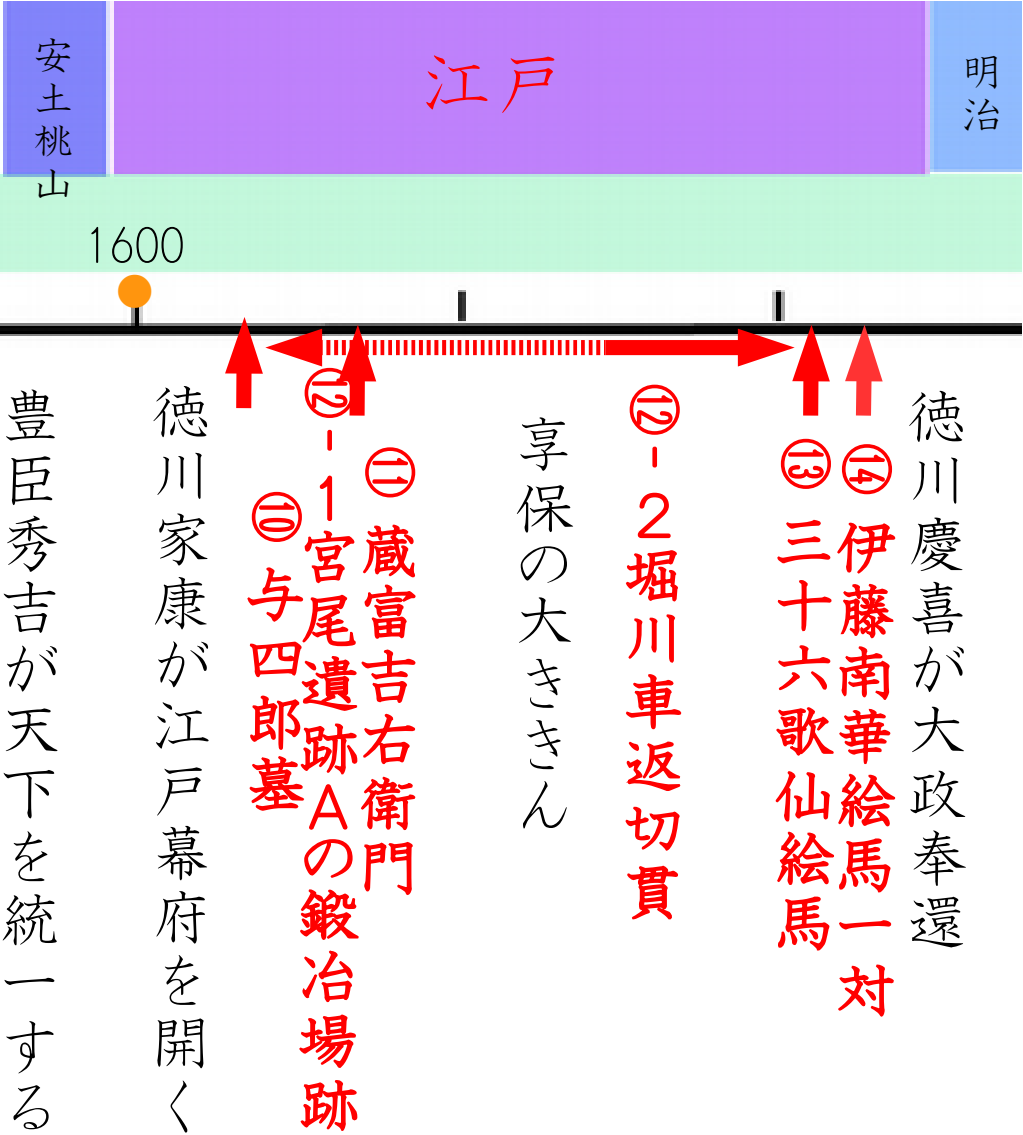
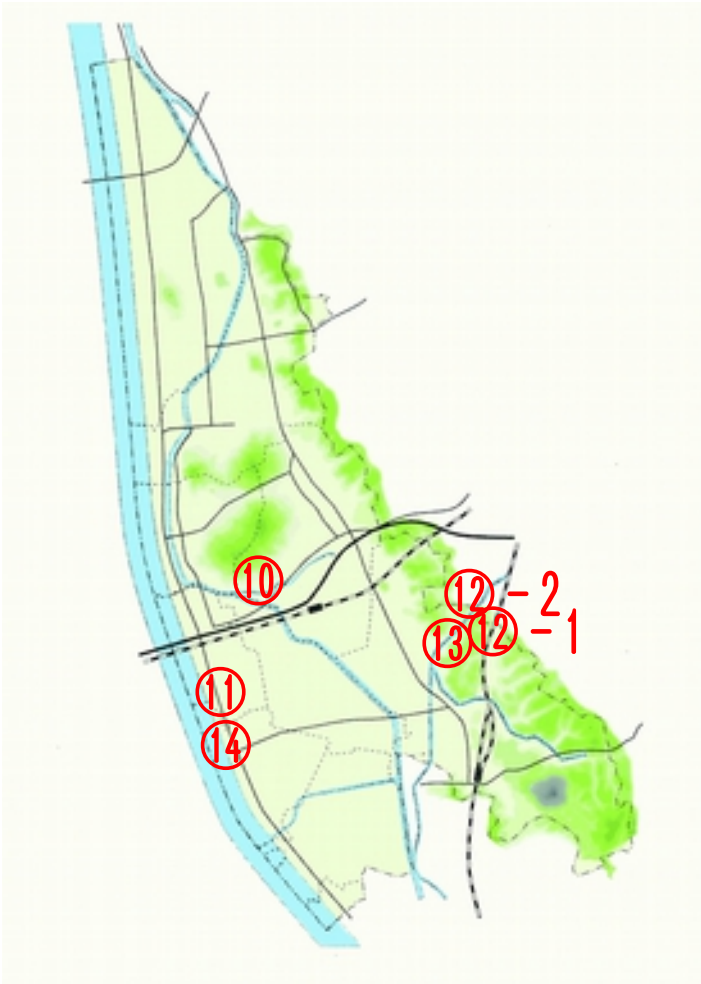
⑨ 古賀城（古賀1丁目）



南斜面に残る石垣

曲川に面する豊前坊山（84.7メートル）に所在する16世紀の山城跡。発掘調査はされておらず不明な点が多いが、麻生文書には天正14年（1586）に、麻生家氏が島津方の古賀城を落城させたことを豊臣秀吉がほめたたえたという記事がある。築城者は麻生鎮里といわれるが不明。山頂に物見やぐら、山麓に武家屋敷があったと推定されている。

近世の水巻



⑩ 与四郎墓（頃末北2丁目）



飢饉で年貢を免除してもらうため、役人の目を盗み稲藁を隠そうとしたがみつきり斬り殺された与四郎の伝説がのこる。村人は与四郎の行為に心を打たれ地蔵としてまつったという。



⑪ 蔵富吉右衛門の墓（立屋敷3丁目）



長専寺横の墓地。鯨油でウンカを駆除する方法を発明した蔵富吉右衛門（1593-1680）の顕彰碑（蔵富家代々之墓裏面）。発明したのは寛文10年（1669）吉右衛門77歳の時だったが、その効果が認められたのは60年後の享保17年（1732）のききんの時であった。1950年頃に農薬散布が普及するまではこの方法が害虫駆除の主流となった。墓碑があったが昭和50年代の区画整理の際に不明となったという。

⑫-1 宮尾遺跡 A の鍛冶場跡

(吉田東3丁目、消滅)



JR筑豊線(伝大膳掘跡)に面し堀川から300メートルの地点で、20メートルの丘陵斜面を段造成した鍛冶場がみつかった。鍛冶炉が8基ほどある。出土遺物は17世紀の高取焼であり、第1期の大膳掘開削時(1621-23)の工房跡か。第2期の車返切貫開削工事(1751-62)にノミと槌を修繕する鍛冶職人が常駐したという記事があり、これに関係する施設の可能性もある。

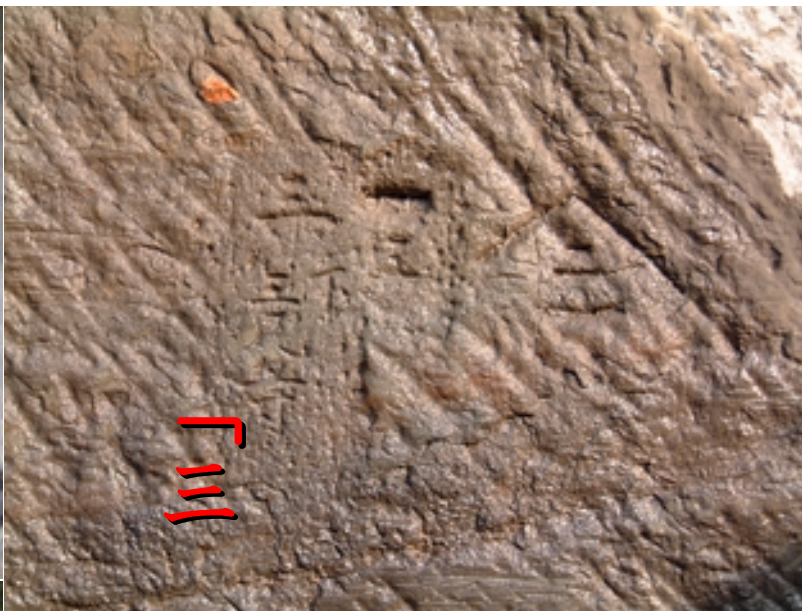


高取焼向付(17世紀初)



鍛冶作業のようす(「奈良尾遺跡」報告書より)

⑫-2 堀川車返切貫 (水巻町吉田東～八幡西区大膳)



「三」

三尺五寸下」

「三」

「ヤマニ」



「文」

郷夫頭（藩抱の石工）勝野文兵衛の「文」と一致？

18世紀半ば完成した遠賀川と洞海湾を結ぶ人工運河。吉田地区では1751-62年の開削時に岩盤を切貫いたノミ跡435mが残っている。江戸時代切通しとしては我が国で最長。線刻文字が見つまっている。その意味するところは不明。

石割技法(矢穴技法)



石割技法(切抜技法)

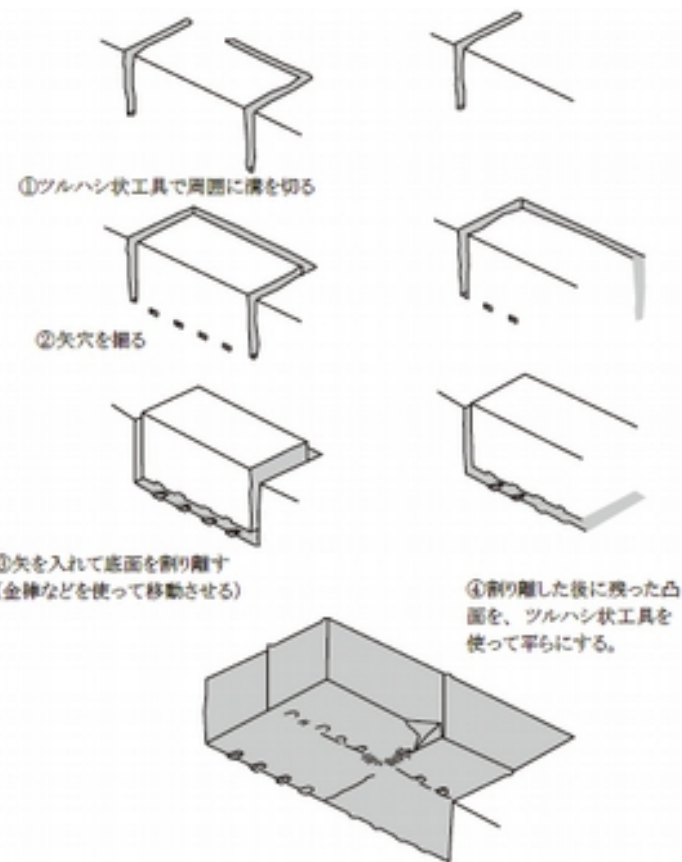


図7 切抜技法模式図
(島根県教育委員会 1997「大井谷石切場跡石切り工程復元模式図」
『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』より)

⑬ 三十六歌仙絵馬(吉田東3丁目、河守神社)



小野小町

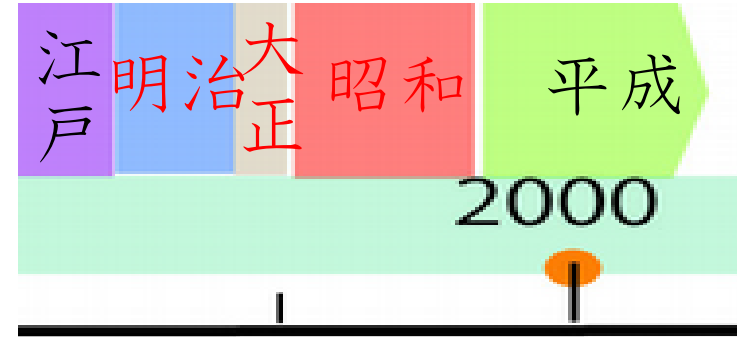
河守神社には、奉納された三十六歌仙絵馬があり、裏書には、文政8年(1825)遠賀郡二村の玉泉描と記されている。玉泉という人物はどのような人物であったのかは不明。又、36枚の絵馬が完全に残っているのはこのあたりでは、嘉永2年(1849)の北九州市若松区白山神社(北九州市指定文化財)と天保5(1834)の鞍手町古物神社のもので、大変貴重なもの。

⑭ 伊藤南華絵馬一對(立屋敷3丁目八劔神社)



天保11年(1840)鞍手の古物神社神官で国学者伊藤常足の子南華が描いたもの。上が「競馬図」、下が「神功皇后釣鮎図」。「競馬図」の裏書には絵馬を奉納した由来が記されている。それによると、遠賀地域で大雨などの災害が続いたため役人と流域の庄屋が費用を出し合って奉納したという。一對の製作には8両(約40～50万円)かかったことが記されている。

近代の水巻



明治政府がはじまる

第一次世界大戦

⑤ 二人の青年

⑥ 炭鉱就労者の像

第二次世界大戦

⑦ 十字架の塔

⑮ 木彫レリーフ二人の青年

(古賀3丁目、町指定文化財 2005/7/28)

図書館内に所在。昭和5年(1935)、一色五郎(※)が27歳の時に帝展で入賞した時の作品。日本炭礦の全盛期に建てられたクラブの玄関に飾られていたもので、水巻の炭鉱の繁栄を象徴するもの。

※ 一色五郎(1903-85)

茨城県出身。彫刻家。東京美術学校卒業。日展入選11回。



⑩ 炭鉱就労者の像

(古賀3丁目、町指定文化財 2005/7/28)



図書館駐車場。昭和初期、国は石炭生産向上のため軍需生産美術推進隊を組織し、全国の主要な炭鉱にシンボル像を残した。この像もそのうちの一つで試作品のミニチュア石膏像があり圓鰐勝三(※)の作と判明した。もともとは、日本炭礦第2礦坑口付近(中央)にあり、閉山後日本炭礦本事務所(頃末北)にあったものを図書館に移転した。近代化遺産として貴重なもの。

※ 圓鰐勝三(1905-2003)広島県出身。日本美術学校卒業。日本芸術院会員。多摩美術大学名誉教授。文化勲章受章。

⑪ 十字架の塔 (古賀3丁目)

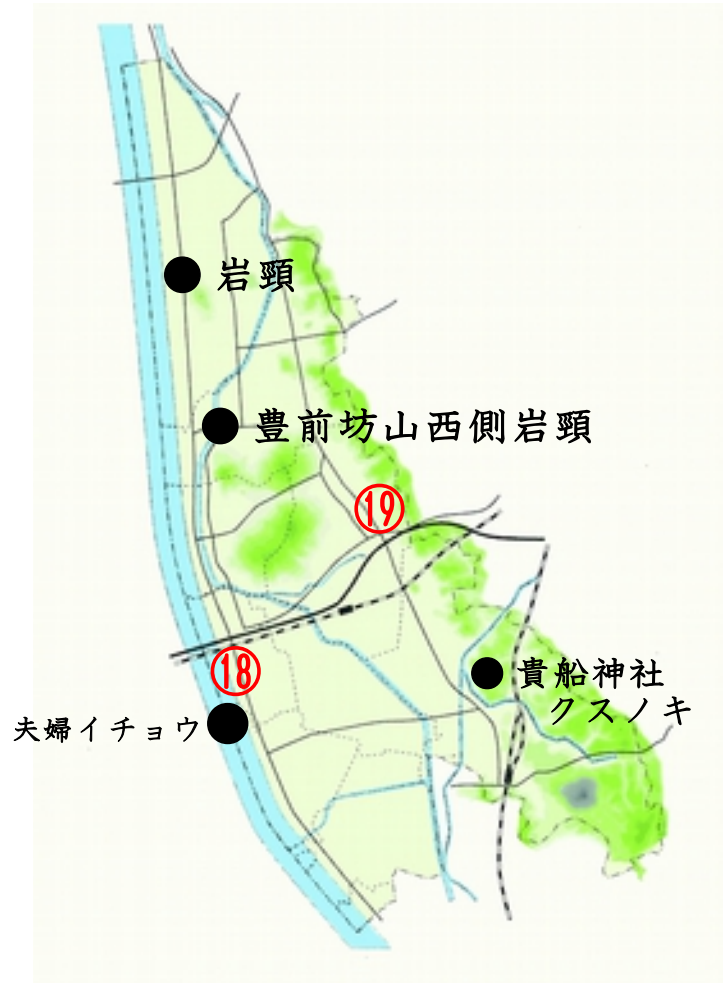


多賀山(98.2メートル)の東斜面に所在。戦時中、日本炭礦では連合軍の外国人捕虜を労働者として受け入れ、強制労働をさせた。戦後、戦争犯罪が問われるのを恐れた会社側が手厚く葬っていることを示すため急いで十字架の塔を建たのがはじまり。その後忘れ去られたが、作家林えいだい氏などが発見、元オランダ兵捕虜が訪れ「十字架の墓標平和と文化を育む会」の献身的な活動により、昭和62年(1987)整備された。以降、オランダ人捕虜やその遺族が慰霊団として訪問することになる。平成8年(1996)からは双方の中学生がホームステイする交流がはじまっている。

水巻の天然記念物

⑮ 八劔神社の大イチョウ

⑯ 頃末小学校露頭



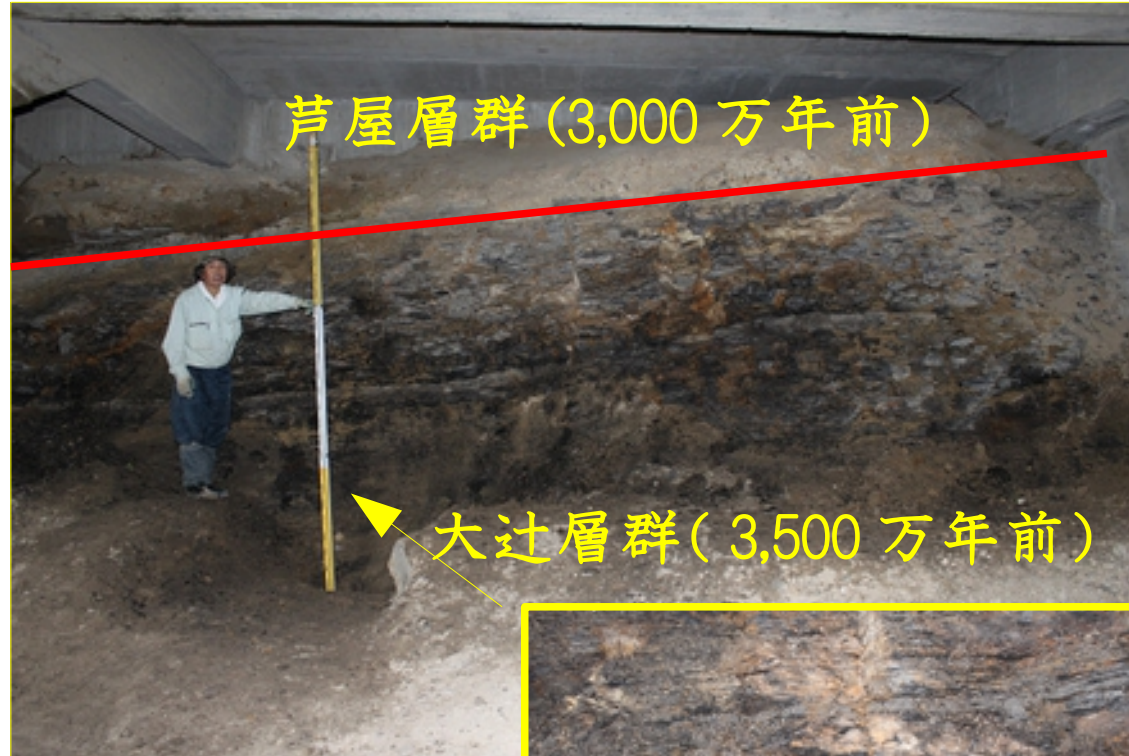
⑱ 八劔神社の大イチョウ

(立屋敷3丁目、県指定天然記念物 1978/3/25)

町唯一の県指定文化財。樹高22.26メートル、幹回り9.7メートルのイチョウの雄株の古木。樹齢は1,900年余りといわれ、日本武尊と碓姫との伝説がある。近年の遺伝子学的な調査により韓国慶尚北道亀尾市と島根県太田市の福岡市の櫛田神社のイチョウと兄弟関係にあることがわかった。



⑪ 頃末小学校露頭(頃末北4丁目)



南校舎の西側床下到大辻層群遠賀層(約 3,500 万年前)と芦屋層群(約 3,000 万年前)が露出している。遠賀層は厚さ2メートルにわたり石炭をところどころに含んでいる。このように保存状態のよい露頭は県内には少なく非常に貴重なもの。



← 大辻層群に含まれる石炭
(所々光沢のある部分)